

米国の未臨界核実験実施に抗議する

2024年5月21日
日本原水爆被害者団体協議会

米国は、バイデン政権下で3回目の実験を14日に実施したと発表した。核兵器の廃絶を求め続けている被爆者の全国組織である日本被団協は強く抗議する。

2021年1月には核兵器禁止条約が発効した。しかしその年の6月と9月米国は実験を秘密裏に2回実施しており、その発表は、2022年の4月の報告書によって明らかになった。

今、世界は核兵器使用のリスクが高まっている。目の前で起こっているロシア・ウクライナの戦争、イスラエルとパレスチナの戦争の先に、核兵器が使われることになるのか。

原爆は多くの命を奪い、今なお様々な形で、からだ・くらし・ところに影響を与え続けている。非人道的結末をもたらした核兵器使用の惨禍は、決して繰り返されてはならない。

核兵器禁止条約は、核兵器の開発・実験・製造・備蓄・移譲・使用・威嚇を禁止している。これらの行為は条約への加盟、未加盟にかかわらず国際法に反する違法行為である。

米国内の世論でも70%が核兵器は必要ないとしている。世界が核兵器の廃絶を求めて前進している中で、米国の行為は、到底許すことはできない。

米国が、核兵器の禁止・廃絶を求める世界の要請に、話し合いの力でその先頭に立つことを強く求め、アメリカの実験実施に強く抗議する。